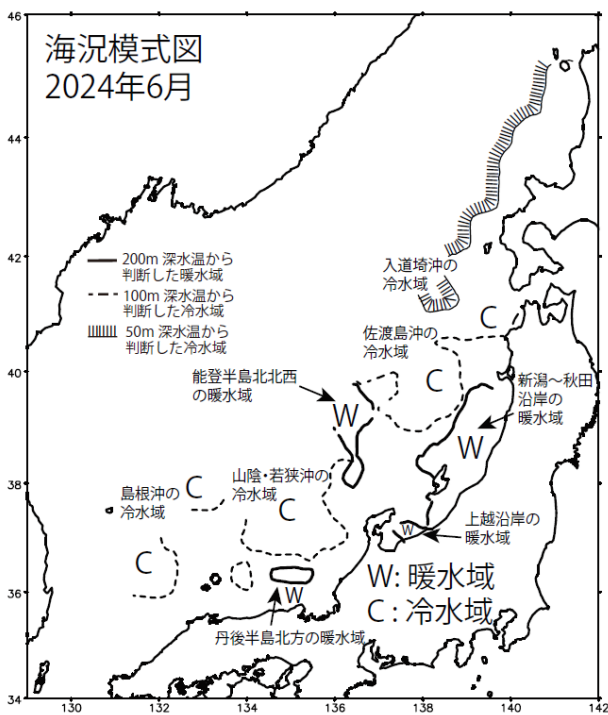




## 2024年度 第2回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(2024年7月中旬～9月)のポイント



(註)用語の定義は以下のとおり。

“はなはだ”：出現確率約22年に1回、“かなり”：出現確率約7年に1回

“やや”：出現確率約3年に1回、“平年並み”：出現確率約2年に1回

- 丹後半島北方の暖水域はやや北西に移動し、隠岐島北東に分布する。能登半島北北西の暖水域は南北の二つに分離し、北部の一部は停滞するが、南部の一部は東に移動し、佐渡北西に分布する。上越沿岸の暖水域は弱体化し、消滅する。新潟～秋田沿岸の暖水域は沿岸部が弱体化し、佐渡北方に分布する。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくかなり離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくかなり離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さくはなはだ離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並みでやや接岸で経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- 対馬暖流域の水深50m水温は、日本海西部及び北部ともに“やや高め”で経過する。

### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：海洋環境部（新潟） 渡邊、井桁

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

# 2024年度 第2回 日本海海況予報

## 1. 今後の見通し（2024年7月中旬～9月）

- (1) 丹後半島北方の暖水域はやや北西に移動し、隠岐島北東に分布する。能登半島北北西の暖水域は南北の二つに分離し、北部の一部は停滞するが、南部の一部は東に移動し、佐渡北西に分布する。上越沿岸の暖水域は弱体化し、消滅する。新潟～秋田沿岸の暖水域は沿岸部が弱体化し、佐渡北方に分布する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくかなり離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくかなり離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さくはなはだ離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並みでやや接岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部及び北部ともに“やや高め”で経過する。

## 2. 経過（(1)は2024年3月～6月、(2)～(3)は2024年3月～5月、(4)は2024年3月）

- (1) 3月に隠岐島北東に見られた暖水域は4月に南下した後に、5月には東進し隠岐東方沖に分布。その後、勢力を弱めつつ南東進し丹後半島北方に分布。3月に若狭湾に見られた暖水域は4月に消滅。3月に能登半島北方に分布した暖水域は、勢力を保ちつつ5月まで停滞。その後6月に勢力を拡大しつつ西進し能登半島北北西に分布。3月に佐渡島北方に見られた暖水域は4月に消滅。6月に上越沿岸に暖水域が出現。6月に新潟～秋田沿岸の暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は、3月はデータが少なく不明、4月ははなはだ小さくはなはだ離岸、5月はかなり小さく接岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、3・4月は規模・接岸距離ともに平年並み、5月は規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、3月はやや小さくやや離岸、4・5月はかなり小さくはなはだ離岸。入道埼沖の冷水域は、3月はやや小さくかなり離岸、4月は規模・接岸距離ともに平年並み、5月はやや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、3月は、能登半島西方、佐渡島北方、青森西方で“かなり高め”、青森はるか西方で“はなはだ高め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。4月は、能登半島西方、能登半島北方、青森西方で“かなり高め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。5月は、山口北方、能登半島北方、青森西方で“かなり高め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“平年並み”、北部で“かなり高め”。

## 3. 現況（2024年6月）

- (1) 暖水域は、丹後半島北方、能登半島北北西、上越沿岸、新潟～秋田沿岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域ははなはだ小さくはなはだ離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、やや小さくかなり離岸。佐渡沖の冷水域は、やや小さく、はなはだ離岸。入道埼沖の冷水域は、やや小さくやや接岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、能登半島北西、佐渡島北西、北海道西岸～西方で“かなり高め”～“はなはだ高め”、青森はるか西方で“やや高め”～“かなり高め”、能登半島東方～佐渡島西方で“やや低め”～“かなり低め”以外は、“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部、北部ともに“やや高め”。

(註) この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した FRA-ROMS II システムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（7月～9月）も参考にした。

引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- “はなはだ高め（低め）” : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ）
- “かなり高め（低め）” : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ）
- “やや高め（低め）” : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ）
- “平年並み” : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
	(取りまとめ機関)
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所